



陽

陽

陰

六日店

初献之事

純子之事

嫁取之事

智取之事

純子弦比之事

移住之事

御産敷之事

智取嫁取之事

御産敷之事

元服之事

御ひ之事

御ひ之事

驢之事

驢之事

袴着之事

初献之事

庖丁之事

常之事

俎之事

常之事

俎の面名之事

庖丁之事

庖丁柄之事

初之事

毛鳥切事

唯難切事

桃子しじみ事

三拳腰事

その肴の事

正月桃子しじみ事

おたての事

多量の事

とゆの事

初献之事

一 雑煮ハ魔王ノ五臓ヲカタトリシユス

一心生火色赤シ下ヲカタトル鯉

一 肝生木色青ニ眼瓜ニカタトルイモ

丸長ク削ル

一 脾生土色黄皮肉ヲカタトル串鮓

一 肺生金白モノヲス氣ニ通スル餅

一 腎生水黒耳ニ通スルイリコ

右の如くして、おいて、しばらくおき、

君を、うめ、なりて、酒の、下

と、さう、お、清、く、お、し、ひ、ひ

と、さう、お、清、く、お、し、ひ、ひ

くはそをえんたをいのとき時
竹の林の親より常ふ似るに
一はふとひさりゆふとふて
竹の林の中はあふとふて
雨落れ合ふて酒はあられ
人をもとふるとき時文の
竹の林の親にやふひさる
たあふとふてひさりて竹の林
よふとふてひさりてふたふ
て竹の林の親にやふひさる
見れし酒也け酒とのふ
ふふふふて死せふふふ
ふふふふて死せふふふ

乃葉をとり毛酒の初也と
天竺唐國より酒のあふふ
ありふて蝶ふにふてはと
はむる也蝶ふにふてはと
一はふとふてふふふ
ふふふ蝶ふ也

一あふとふて蝶ふにふて
式三献饗食膳の君は女蝶ふ
初献より男蝶ふ一紙也
そのあふとふて蝶ふに
はふとふて蝶ふにふて
三回ふとふてふふふ

とろおれがたてもお梅の紙
てあふいふ

一 じこころの純子は心事

式ニ献男蝶さるし初献

女蝶さるし紙引合とひい

里へゆき紙さるる人

一 純子のじこころの事

正月十二日一十三日

純子乃こへと取さるる元

也十三日の年といひ移るる

十二可有閏月ハは信あり

一 移住の事

式ニ献饗食膳さるる湯

粥をさるる金多そそま

膳ありて膳をさるる

さるるさるる献さるる

一 浄土おたて地事

二重二合玉盤ニツ玉

さるる少て親のたい

てこい服合也魚つり

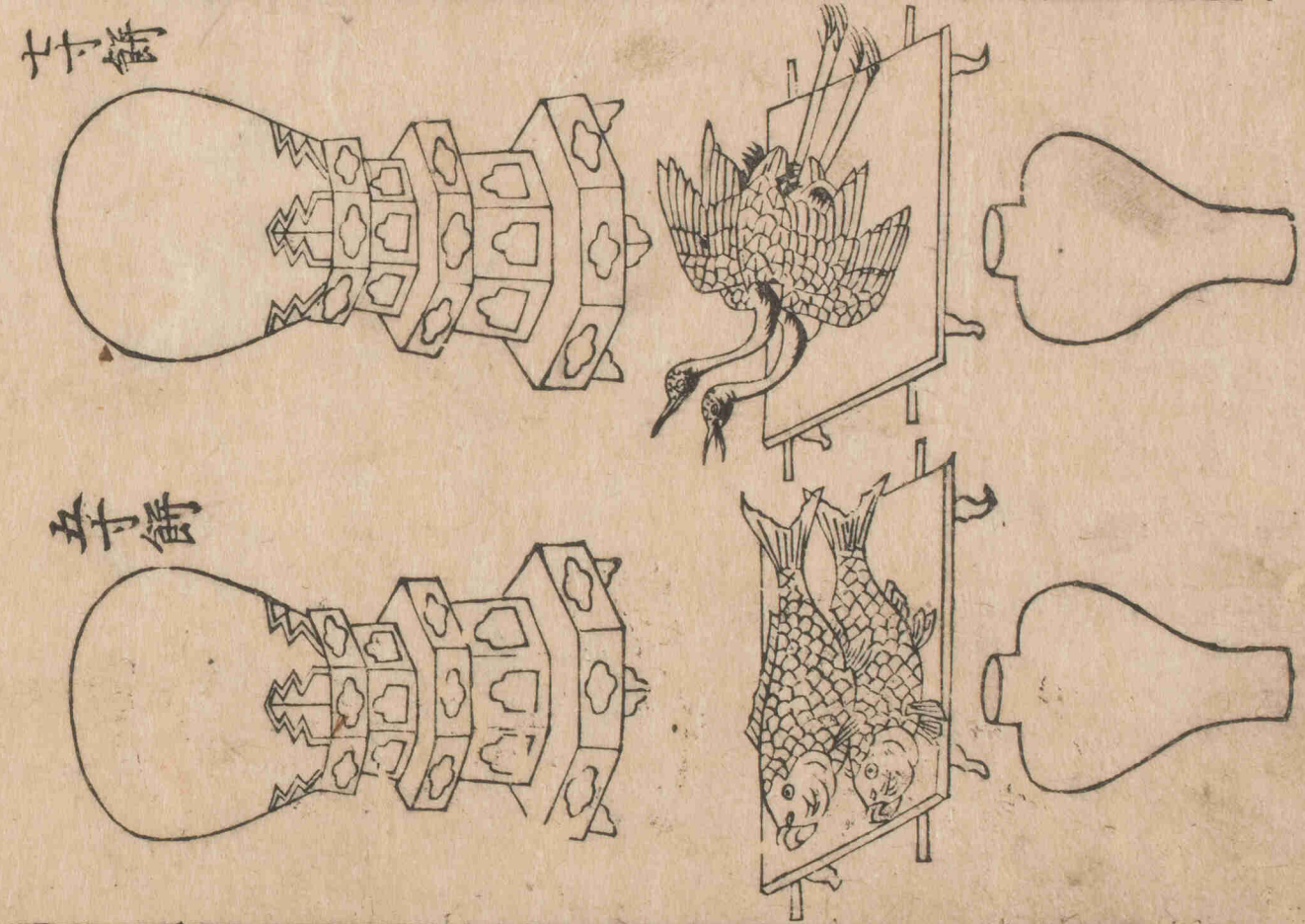
やうハツ男蝶一ツ女

ぶつさるる紙さるる

れる并但純子の口は

しき也松のあを花さ

同うぶ食大根二年ふり一丸
 莫二ツ腹合て二廻二ツ腹合て
 びと紀は少る二ツ石の比○乞祝
 うち成法膳よりした玉てゑ氏
 いふ成やあせとされん乃思おと
 夢てこのむもまていた秋の心
 をいあるとふ乃所神れは祝也
 はまへそ外はいこつてこれ餅よく
 ろー他は前ハ三献多へさあを
 初献こいつてこの餅二献落忍
 もい物三献こめあゆりき乃
 此祝也之乃御膳可致也



七十餅

五寸餅

一ひと元服げんぷく乃事

二重の二合を乃とく玉^{おこい}鯉ニツ右
乃とく^{おこい}鰻一ツといなりとく^{おこい}
しら二はいらてうどつひれと
津じろのはらきそとのりも
同とく上十二^お粒十二合^{きん}龜足
かうたてあぶく下をへるが升
あろうふさめはくしとあま湯を
魚ニハひこあをせめてまねそ乃
よと名おきていうあもはく
史他^おゆやうの面^{おもて}は二ツうに
二ツありとあやうふ口^{くち}傳^{でん}ある

式^{しき}三献^{さんけん}郷^{きやう}食^{じき}臨^{りん}幸^{きやう}村^{むら}又^{また}流^{りう}々^々
 々^々や々人々^{にん}上^{じやう}流^{りう}々^々刀^{たう}涉^{せつ}馬^ば進^{しん}
 上^{じやう}以^い初^{しう}献^{けん}乃^の時^じ流^{りう}々^々々^々や々
 人^{にん}流^{りう}々^々刀^{たう}流^{りう}々^々の^の物^{ぶつ}流^{りう}馬^ば流^{りう}
 礼^{れい}々^々

一歩ひもるは——乃事——

ゆゑに

式^き之^え献^えるるもあてまうし
 ても三献り又献ぬともよろし
 一献^か三^の献^りありとも

一御多抄記乃事

此乃事

或之献沛郷食膳（たう）之（を）本（もと）たてよ
 てて膳也但此位より入一に
 て松にうへて露（つ）龜（か）とほかりて
 我へさ也初献三献（さん）さるへさ
 たりぬめ一之乃酒膳（し）せもさ
 膳也

一 難乃事

周の武王（ふう）は沛舟（ばい）へをいひあま
 たり難一（なん）つとい入ま沛武王を
 くそおさ膳ふ太公望（たいこう）とい
 わけてきてまつりま武王が
 庖丁（ほうてい）をされたり太公望てらび

一 膳なりまありこも海
 中より入てみふ乃酒立ま
 とい天通（てんたう）はかり膳ふふふ
 膳と也膳は立ふ乃酒立ま
 りる也膳は酒なり酒は酒なり
 一 膳は酒なり酒は酒なり
 をつて膳ふそさそさ下
 又ささ酒なり酒は酒なり下
 より酒なり酒は酒なり酒は酒なり
 是黄赤の二つなり酒は酒なり
 ハ膳とこつて酒なり酒は酒なり
 酒は酒なり酒は酒なり酒は酒なり

然も武王おえ給ふにあり第一
 常然なりゆ危下尾なるとも
 くるも始まる也先よひ進むと
 なるも武王おえ給ふにあり
 ても名くの籍も又一つなれ
 とも云あり白久六也力をそ
 るりつらきもくも常然也
 一切なる輕作事
 一番うかりと 二番おれと
 一番打ぬ 四番あがり
 一番うかりと進むと
 一番ふらんおれと

伊特諾高御針とて海中と
 ころけの海間は橋一つあり
 づら橋をかりい橋ふあがり
 又海中とけけの御針の
 されは奥一つありとて時穴
 一丁忽一てやむるはるの奥に
 まかうがといふ奥ちり先のと
 ははむくといふやきるなり
 幸にあひだてると今日
 とけきりも絶久一とて
 ておけへぬる高きとて大
 驚と云とあうとて海中

へはよじ事人きりてあらん
とま後任吉乃明神なりいあ
しなひそにほとめとあそ
し後よきうにきとるふ
よははれは轄二ツ藁う尾と
し心最ようかおしたは聖子
今んまんとあしあはちり
あ乃力光花せとくしてあ
あしああは波光花果ちり
えは神明乃河美流はあし
あしし物にけあひのひとあり
は時乃法物なりや又まかうか

こふまといぬ井と云ふとく
もこ乃ゆなり帝にやる
す一降と秘なるの也まのま
うかあれまかうか神あ
あつが是とが条いん作也
きてもきぬか礼はわの居國
うまれ教乃ゆし右日本國の
るるれもい沙汰之國よきも
ろしうらとあはあし
まあるう

いふ海とあし
饗膳ふて一或と飲乃らり

あふと下の鯉^{こい}とく一膳^{たん}羹^が
ハ縹^{へい}玉^{ぎよ}の鯉^{こい}より上^{かみ}玉^{ぎよ}ハ尾^びを
けりや一尺^{いちせき}とくより此^こなる
とくなる物^{もの}はあづ一^{ひと}と事^{こと}
く庖^{わう}下^かは之^{これ}は口^{くち}傳^{でん}る物^{もの}歟^や

二献^{にけん}赤^{せき}也^や

一物^{ひともの}献^{けん}乃^{のち}事^{こと}

昔^{むかし}ハ病^{びやう}のまゝに氣^き是^{こゝ}切^きて
盤^{ばん}けるあると河^か望^{ぼう}の雄^{ゆう}とら
しるまこのまゝと事^{こと}と事^{こと}と事^{こと}
ありけ雄^{ゆう}是^{こゝ}とツと事^{こと}一^{ひと}職^{しやく}
羽^はやむと事^{こと}中の是^{こゝ}を初^{はつ}に

云^い是^{こゝ}と事^{こと}と事^{こと}初^{はつ}献^{けん}は下^かの
目^めみ種^{しゆ}乃^{のち}削^{けつ}地^ちハやうらふの龜^{かめ}
一^{ひと}下^か一^{ひと}万^{まん}年^{ねん}の酒^{しゆ}献^{けん}より初^{はつ}は
盤^{ばん}極^{ごく}妙^{めう}の事^{こと}

黒 青^{せい}龜^{かめ}の事^{こと}は下^か

白 赤^{せき}もあつと事^{こと}はさうゆた
黄 赤^{せき}もあつと事^{こと}はみ種^{しゆ}右^{みぎ}なる

一庖^{ひとわう}下^か刀^{たう}之^{これ}事^{こと}

まゝと事^{こと}ハ寸^{すん}の事^{こと}一^{ひと}支^し郎^{らう}是^{こゝ}
室^{しつ}々^々郎^{らう}是^{こゝ}色^{しき}はハツと事^{こと}ハ
と事^{こと}なるり神^{しん}通^{たう}はおめて尾^び
のまゝとも表^へしてありと事^{こと}
觀^{かん}念^{ねん}は是^{こゝ}是^{こゝ}はと事^{こと}のよあめ

一
爲乃事

乃角は三拾六刻さんじゅうろくこくあり

四天王是あり三十おのゝと云ふ

ハ妙經ハ卷同二十八卯ノ表

一尺八寸八分

多
 是
 あり
 げ
 とも
 観念かんねんよみ

五

一類乃事

三寸八分廣

長今之四尺八寸ハ阿孫あそ陀だ乃

軍八穀とひてあり
其の厚さ

二寸八分ふちやう経あり是のう高たかさ三

寸三分は、わ是れ、いち廣さ三寸二分は、

つとすみ方合八寸ハ
八葉丸薄

花と長とあり組の扱^{さく}れ廻^{まわ}る

寸五九尺九寸八分
澤太寸

六字^ち是^ちちる^る阿^あ祿^と阨^だハ^はみ^み斗^{どう}

多賀明神、余と永

ちりほ神なり
なせ^{えち}はあそ^ふふ

[illegible]

長久延命山御

禊りる是皆庖丁今んちや
 組るや也此組ハ列のゆゑ
 あり

一 常ノ組の事

朝拜	四德
長二尺七寸五分	
廣一尺六寸五分	
厚三寸	
足二寸五分	
同二寸七分廣	
足付事切目ヨリ二寸五分	
平七分 層有之	
各金定也	

又長貳尺八寸廣一尺八寸足三寸
 各金定也

式

宴酢

五寸

一 組乃面はあてゑの事

ありて見れば恒る式宴
 解る朝拜の意とほふ神と
 なる
 是もくちりとしていをも四德
 へる乃此酒日月乃此酒又母
 此酒をん酒をいり或は天
 より星下りて守護一
 也わんをいりて守護一
 の候とちり五行をいりて守護一
 金水もいりて五行もいり
 是は程はあり
 一 庖丁の用事

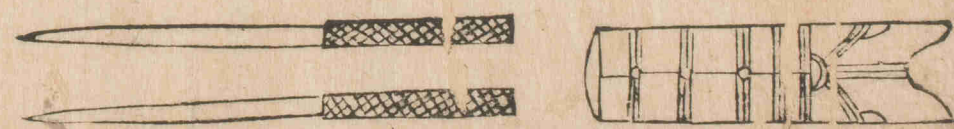
赤木又ハ竹の末ちへ
 本よりとも金うに就ハ
 ともくさちへ
 てゆへ
 てはむる
 さちへ

一庖丁此技之妙事

海は船に人へ
 と海は船に人へ
 みれらやうまへ
 にはとるもの
 九十九海

しうを立ふらとあしてあや
 里知力とのうけてうふなり
 是とらあまてまふ学知はよく
 ありあつともよくあはなり
 かつともあはともつ知は
 やあしてあはなりあはなり
 るなり

九 九 八 八 九 九 八 八 九 九



ねむい刀とほろはれ割ゆ
 金銀あり青中より出る
 刀ハ秘もくはるる面
 一富美世と文あるはゆ也
 三後しく紙はるる。紙る也
 刀口傳あり

一筋乃木れ事

梅の木春 赤木夏 けけの
 木林 黒梯冬 是四季
 銀乃美はるる也常れ銀乃事
 ハ何もの木ありともるる
 是四季乃銀ありと唐木

うても可成る事也

一 此の如く鶴と云ふ事ある事

みへなる事ありある事あり

と云ふ事ありある事あり

此の時うきうきある事あり

と云ふ事ありある事あり

と云ふ事ありある事あり

と云ふ事ありある事あり

と云ふ事ありある事あり

一 毛鳥と云ふ事

一 毛鳥と云ふ事

毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

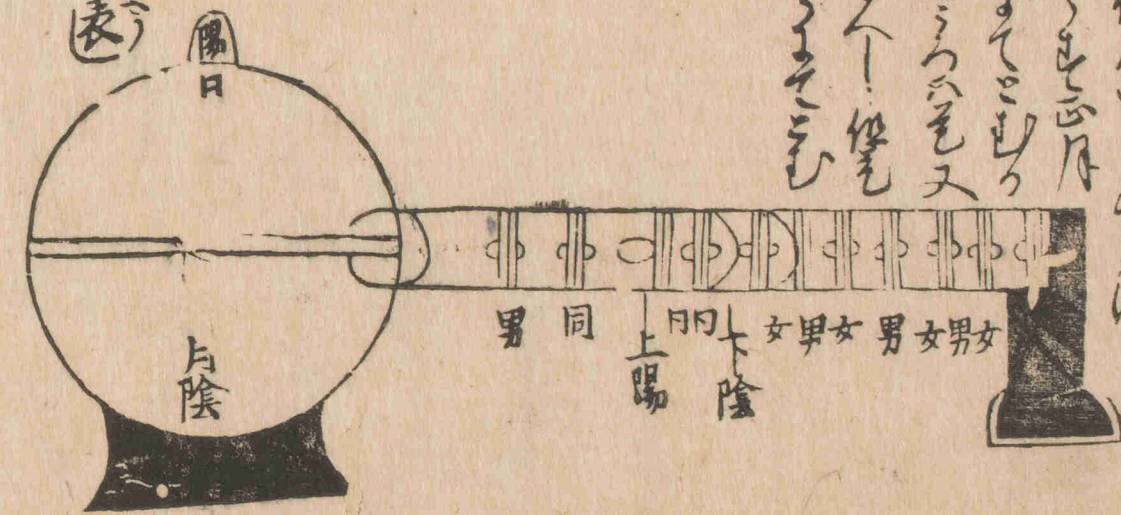
毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

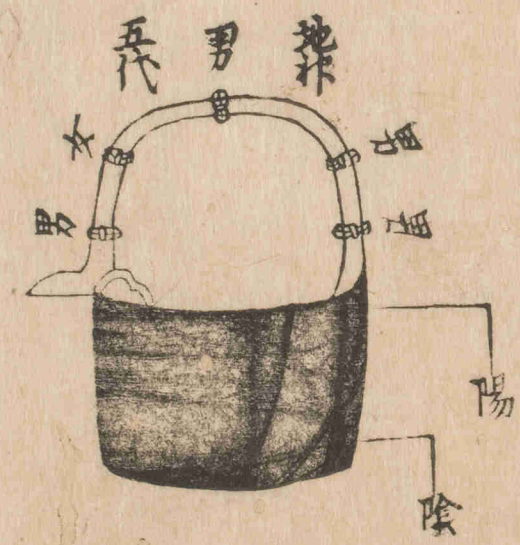
毛の如く云ふ事あり

毛の如く云ふ事あり

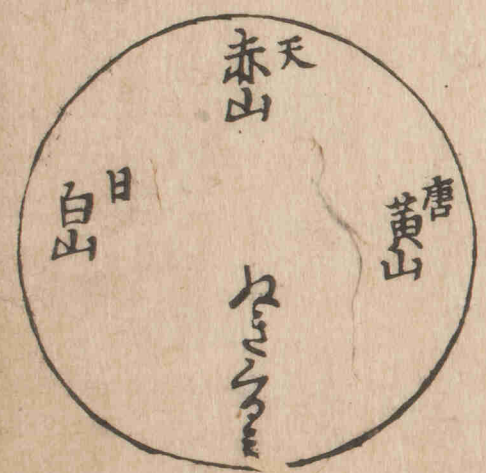
何乃^{エノハ}祝儀も少のよくしる事也
只蝶^{フエ}形あふ一^サ後凌^サハはほ
よりさ^サり他^サ面^サの^サにほ
てとる^サう^サも^サと^サ月
十二^サむも^サ面^サす^サと^サむ
あり^サと^サん^サと^サう^サの^サも^サ又
十二^サむも^サあ^サる^サ一^サ！^サ他^サも
も^サも^サひ^サめ^サう^サと^サそ^サむ
なり、



右大神七代と表す也



有るくまへし他正ん
 有るくまへし他正ん
 一三



かくのくくそそ研榮まへし
 此のくくそそ一とやうに
 三國乃くくそそ一とやうに
 也三つれぬくくそそ一とやうに
 留字もくくそそ不可用也
 夫等そそ師子唐そそ羊日
 年そそ猪毛と作也

一 師子唐

春梅やさ夏梅焼 秋梅
 冬梅やさ梅大梅
 結着新馬しねくくそそ一とやうに
 魚くくそそ他くくそそ力くくそそ馬へ

何かよくくくそそ美くくそそくくそそ
 肝油也もへ初献くくそそ二献ま
 与くくそそ献の美くくそそ乃くくそそ一とやうに
 事くくそそりのくくそそくくそそくくそそ
 一 師子唐とくくそそ梅の純子い種
 救くくそそくくそそ十二くくそそくくそそ一とやうに
 目へ何くくそそくくそそくくそそくくそそ
 純子のくくそそ三取くくそそくくそそ十二の
 むくくそそくくそそ十二くくそそくくそそくくそそ
 て三つハ三世れ説也
 一 正月純子むくくそそくくそそくくそそ
 十二くくそそくくそそくくそそくくそそくくそそ

の三才魂見よてちり花公
むよるすへ元三といて年元
月元日元是元三也

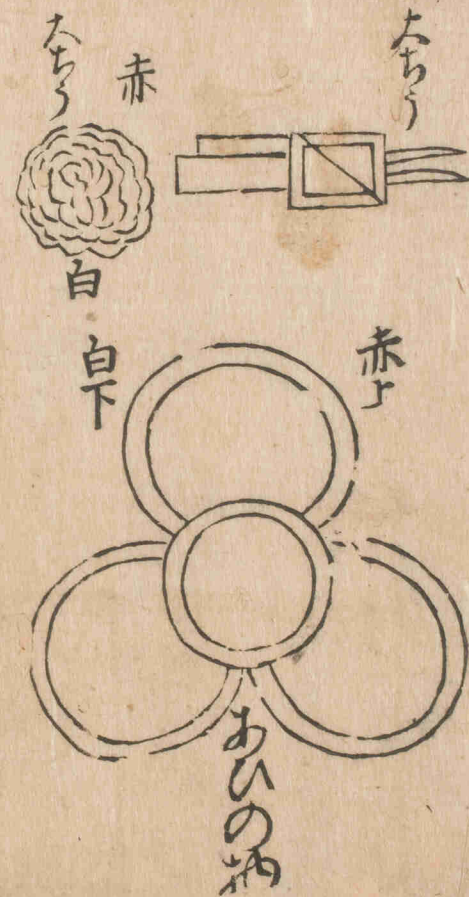
一うたて乃る

二うと洗子の口その外亀是の

と三日あち紙一紙るへ白紙

但下かよひ紙紙そ不若

一久あし餅乃事



おのこくて餅也但餅はろ
張るるかふゆり四寸み
よれあると

一うとゆ乃粥の事

弓四海とふ川州國家長久盤

昌也水よ火あんる一ゆは鏡

右庖丁表廿二

現受無比樂

一佛成道 觀見法界

草木國土 悉皆成佛

右四條家傳受

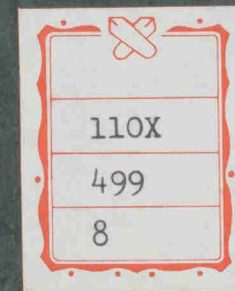
三十一

蘭館新書
吉田五右衛門尉
蘭館和泉書
羽田神左衛門尉
高橋權左衛門尉
高橋又助

寛永十九年
午
五月廿一日
中村十右衛門尉



大阪市心齋橋
林赤志思雅堂
通本町四丁目



110X

499

8